

書籍紹介



小西 史彦 著
ダイヤモンド社

『マレーシア大富豪の教え』

これほどの豊富な経験と人生訓が凝縮された本がこれまであっただろうか。

冒頭には、「無一文で日本を飛び出し、一大企業グループを築き上げ、貴族の称号も得た大富豪が語った実話で構成されたものである。「持たざる者」が、いかにして成功をつかみとり、充実した人生を手に入れるか……。「人生の極意」を凝縮した一冊である。」とある。

氏は自身をごく平凡な日本人だと繰り返すが、読み進めば進むほど非凡な人物であることがわかる。誰もやりたがらない多くの努力を、誰も選ばない場所で長く続けられることは非凡な才能だろう。氏自身は、才能があるから非凡なのではなく、「熱中」するから非凡に至ると説く。

氏はNHKやテレビ東京などで話題となっている日本人なので、ご存知の方も多と思われるが、ネット記事の拾い読み等から、氏は要するに運のいい人物だとか、天賦の才能をもった人物か、はたまた日本の蚊取り線香をマレーシアで売って大成功した人物だなどという理解に終始することは、あまりにも表面的で単純すぎるのがこの本を読むとよくわかる。

マレーシア国王から民間人として最高位の称号「タンスリ」をもらった人物という理解も同様で、この本を読むと最高の名誉よりもそれをもらうまでの過程、すなわち氏の努力と誠実な生き方にこそ目を向けるべき、そこから多数のことを学ぶべきことがすぐにわかる。

タンスリ・コニシ……現地では皆そう呼ぶ。氏は「貴族」となったわけである。氏の誠実な生き方、そ

れをまっすぐに貫きつつ、ときに失敗もありながらもビジネスで成功していく氏の生き方に、ただただ感心するばかりだ。そもそも「セールス」とは「売る」ことではないと説くがなるほど確かにその通りである。

本書は、編集者たちがペナン島にある氏の大豪邸に招かれた際の現地での対談形式で構成されている。なんでも聞いてくださいと氏に言われ、編集者が尋ねた興味ある質問の数々。

最初の質問は、「氏はなぜ、24歳、無一文で日本を飛び出し、マレーシアに渡ったのか？」である。マレーシアに移住したのは1968年。結婚したばかりの奥様と二人、ほぼ無一文であった。歯を食いしばって地を這うような努力、成功と失敗、幸運と不運、信頼と裏切り、権力による脅迫……。氏曰く、何より最大の援軍である家族に支えられ、幾多の苦難を乗り越えてきた。1973年にたった一人で立ち上げた会社が、今や約50社からなる国民的企業グループに成長した。地元企業と競合する事業はしないという経営哲学、まず「群れ」から離れよ、自分の意思で戦う場所を選ぶ、人生は「上」からではなく「下」から始める、何事もまずは徹底的に数をこなす、数を重ねれば平凡な人間も必ず非凡に至るなどなど、氏でなければとても語ることでできない人生訓の数々が実体験とともに教示されている。書かれている内容に飽き足らず、読む者は皆、さらに行間を読むことに必死になるだろう。

「心に太陽をもて、唇に歌をもて」

本を締めくくる最後の教えと同じこのタイトルで、高校の同窓会が盛大に行われた。氏は母校の大先輩であり、そのとき初めてお会いした。本には郷里である能登半島のことも書かれている。海外で働く日本人は100万人以上いるというが、まったくの孤立無援、徒手空拳でここまで成功した日本人は他にはまずいないそうだ。この点をご本人も認めていた。氏からは単なる威圧感ではない、漲るパワーを感じる。氏は経営をすべて若い後継者に任せ、ご自身は次の新しいビジネスを立ち上げるべく東奔西走する毎日を過ごす現役だそうだ。

氏の生き方のすべてはとても真似できないが、1つでも多く見習いたいものである。本の内容すべてに読み応えがある。企業経営者等でなくとも、どのような世代の者でも、日本人なら必ず読むべき一冊である。

紹介者 審査第二部 熱機器 宮崎賢司